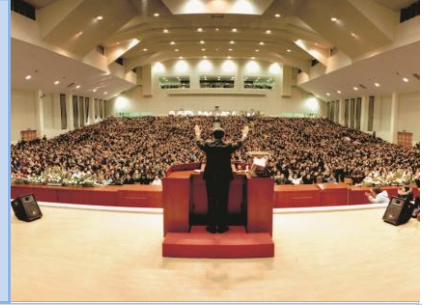


恵みと真理のニュース



2019年11月の二次 恵みと真理教会
 韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

【証】



若い時に尊い教会の職分を受けて
 献身し聖なるビジョンを抱いて前
 に進むように導いてくださる神様
 を賛美します。

私はシフン聖殿で奉仕し仕えている青年です。証を書こうと決心した後、目を閉じて神様が私に与えてくださった恵みをじっくり考えてみました。私を生まれ変わるようにくださったことや小事故と危機から私を救ってくださったことと大学に進学に導いたことなど多くの神様の恵みが思い出しました。そして、神様が私に与えてくださった恵みの中で恵はイエス様を信じるように導いてくださったことであることを悟って神様に感謝を捧げました。これが私の証で一番の誇りです。

幼い時、親が共働きをして私は同じ建物で居住するおばあさんと長い時間を過ごしました。おばあさんは信仰深くて主のことに熱心でした。また、家でも真面目に聖書を読みながら私に信仰の手本を見せてくださいました。しかし、私は小学校の高学年になると教会に行くのがつまらなく思っ礼拝を疎かに捧げました。引越した後、教会が遠いというわけで主日を守らなかつたです。

中学生になった時、友達と家族の仲で関係が悪化されました。大学入試を控えた姉によって家族の皆が敏感になり結果があまりよくなかつたので大きく失望しました。頭が良くて勉強が上手だった姉の入試のため家族皆が関心を持って積極的に応援したことが姉にもっと大きい挫折を与えたのです。姉は長い間、うつ病を患いました。私は親の愛を一人で受けている姉が嫌で私をほたらかにぶあしらうような感じがして親も憎みました。友達と遊んで彷徨もしました。私の深い心は寂しさと空しさがありました。友達に会うと全てを忘れて楽しく遊んで家に帰って来たらもっと寂しさと空しさに陥り、人生を諦める心もありました。

ある日、鏡を見ると人生の意味と目的を失って生きていく姿がかわいそうで気の毒でした。台所にいる母に私を教会に連れて行ってくださいと願いました。心の苦しみを治癒され慰めたくて参席した礼拝で人格的にイエス様に出会いました。神様が私を教会で呼んで下さり、御言葉の権能と聖霊のお働きの中で会わせてくださいました。ハレルヤ！その後、当会長の牧師と教会学校の教役者の恵みある説教を聞きながら私の人生が変化されました。“主イエスより尊い方はいな

い。”という賛美の歌詞が私の真実な信仰の告白になりました。

私を救ってくださった主の恵みに感謝して中高等部の聖歌隊と賛美団で奉仕しました。学校でも毎朝1時間、早く行ってイエス様を信じる学生達と聖書の御言葉を黙想する集いを持ちました。神様がイエス様をよく信じる友達と交際するように導いて下さり、私の信仰が正しく成長するように細心に見守ってくださいました。神様が私が家族を憎んだことも変化させてくださいました。救われた喜びで教会に通い礼拝を捧げましたが、まだ、私の心は家族に対する恨みでいっぱいでしたが、説教を聞くある日、祈りの中で家族を理解して愛する神様の音声が感じられました。神様は“互いに忍び合い、責めるべきことがあっても、赦し合いなさい。主があなたがたを救ってくださったように、あなたがたも同じようにしなさい。”(コロサイ信徒への手紙 3:13)という御言葉を下さって私に対する主の愛と哀れみを感じるようになりました。外で苦勞している父と家族の事で心配して涙を流しながら祈る母、姉の心の傷と痛みを考えるようにしてくださいました。それで今は親に慰めと力になる娘になって姉が大変な時に委ねる妹になるように努力しています。

大学入試を控えて私の進路を決めるため神様に祈る中で以前のように人生の意味と目的を知らなくて彷徨している人々を助ける心が出来ました。神様は“最も低い所で働けるかと聞いたら、福音伝道者のビジョンをくださいました。私は貧しくて疎外された隣人を助けながら福音を伝える社会福祉者になるうと決心して社会福祉学科に進学しました。党会長の牧師の説教を聞いて感動を受け、我が教会で信仰訓練をよく受けたと思ったので大学生生活は心配しませんでした。しかし、順調だと思っていた大学生生活は揺れ始めました。wccなど宗教多元主義的思想を持った神学教授達が学校ですべての学生の対象に教養科目を教えていて、毎週2回、義務的で参席すべきチャペル従業も出身を分らない多数の人文系の講師が感性的な主題と言語で表現して聖書に反する思想と理念を注入していました。社会的にどんな話題はもちろぬ信仰生活に関連するものまで本主義の態度を取る多くの教授と先輩たちを見て学校生活を続けるのが深刻に悩みました。あらかじめ、学校に関する情報を詳しく調べなかつたことが私の過ちでした。我が教会のすべてに参席してもっと御言葉中心で教会と礼拝中心で正しく信仰生活をするため力を尽くしました。そうしたら、御言葉を通して神様が喜ばれることとそうではないことに対して分別力が出来て間違った教えに惑わされなくなりました。ハレルヤ！

教会から任命された職分を頑張って奉仕しました。教会学校で幼小等部の教師として、青年奉仕宣教会で委員として奉仕しながら神様の大きい愛と能力を体験し

ました。今年の夏聖書学校を準備しながら祈りをするも出来ませんでした。学生の職分に物質でも献身できる余裕はなかつたですが、献身する心は神様が与える願いだと思っ神様の助けを求めました。“神様！今回の夏聖書学校の時、子供たちの団体の服を献物したいです。助けてください。真実で優しく限りがない能力を持っておられる神様は私が献物するように摂理してくださいました。ちょうど必要だけ与えてくださる神様の繊細な手を感じながら感謝と喜びで献物しました。主の事のため献物しようとする心を持つ時、助けてくださる心に溢れるやりがいと幸せを与えてくださる神様の恵みを体験しました。

続いて行われた青年修練会でまた、神様の大きい恵みと能力を体験しました。修練会が始まる2か月前から右の肩が痛くなり修練会の前には手がしびれてあげられないほど痛みがありました。思い切り期待して準備していた修練会だったので痛みを我慢して参席しました。金曜祈りに参席して賛美をするときには手を上げられなくて手拍子が出来なくて口で賛美だけ歌いました。両手を挙げて神様を賛美したい心が切なかつたのですが、痛くてできませんでした。癒しの恵みに関する御言葉を委ねて神様に治療をしてくださることを願いました。“神様！両手を挙げて神様を賛美したいです。私を治してください。かろうじて一つ腕を上げて祈りをする瞬間、神様の権能の右手が私を強くつかんでおられるのを感じました。そして、私は両手を挙げて神様に感謝の祈りを捧げました。神様が治療してくださいました。

修練会で我が教会の3代目標を主体にして各プログラムに参与して彼に合わせた祈りの時間に心を尽くして祈る時、聖霊様が宣教師の使命を確信を与えてくださいました。大学に入った時に決断がたまには無意味になるほど、肉の欲、目の欲、生活のおごりを求めた罪を悔い改めました。神様が北朝鮮のため祈るように助けてくださり、北朝鮮にも福音を持って入る夢を見てくださいました。私の個人的な欲ではなく、神様のビジョンだけを見上げながら神様の御旨が成し遂げられるのを願い決断した恵みの時間でした。私に会って下さり、子供にして下さり、神様を畏れ愛し、神様の国のため献身する人生になるように恵みと愛を与えてくださった神様に感謝を捧げます。小さくて弱い私に大きくて清い夢を与えてくださった主を賛美します。教会の職分をもっと担って神様のビジョンを成し遂げるのを願い、家族の皆が実りがある信徒になって主の事に献身し、主の中で幸せを享受するのを願いすべての栄光を捧げます。



【信仰コラム】

“さてあなたがたは、先には自分の罪過と罪とによって死んでいた者であって...” (エペソ人への手紙 2:1~10)

実相とは実際の姿であり、そのままの状態です。本質とはあることが持っている根本的な本来の性質や要素です。人と私物の実相と本質に対する知識は誰にでも必要です。私達人間の実相と本質に関してエペソ人への手紙2章に記録された御言葉を調べてみましょう。

1節には“さてあなたがたは、先には自分の罪過と罪とによって死んでいた者であって”と記録されました。人の霊的な実相は‘罪過と罪で死んだ者’です。魂が神様の生命から離れています。罪過と罪で死んだ者達の知性では生活の根元と理由と目的を知ることはできません。神霊な喜怒哀楽を知りません。そして神様を喜ばせようとする意志がありません。

2節と3節には“かつてはそれらの中で、この世のならわしに従い、空中の権をもつ君、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従って、歩いていたのである。また、わたしたちもみな、かつては彼らの中において、肉の欲に従って日を過ごし、肉とその思いとの欲するままを行い、ほかの人々と同じく、生れながらの怒りの子であった。”と記録されました。

罪過と罪で死んだ者の生活特性と本質について言われました。第一は、この世のならわしに従い、無神論や偶像崇拜に基づいた習わしと世俗の流行に従って生きます。第二は、空中の権を持つ君であるサタンの影響の下にいて、サタンの操縦を受けます。第三は、肉とその思いとの欲するままに従って生きていきます。

実相と本質

第四は、生まれながらの怒りの子なので審判を受けて地獄刑罰に処されるようになっていきます。

4節から6節までには“しかるに、あわれみに富む神は、わたしたちを愛して下さったその大きな愛をもって、罪過によって死んでいたわたしたちを、キリストと共に生かし—あなたがたの救われたのは、恵みによるのである—キリスト・イエスにあって、共によみがえらせ、共に天上で座につかせて下さったのである。”と記録されました。

実相と本質が罪過と罪で死んだ者であり、神様の怒りの下にいる罪人に向けて福音が宣布されました。実相と本質が完全に変わり神様の子になり、光栄の相続者になる消息です。いかにしてこのように珍しくて驚くべきことが起きられますか？第一は、‘あわれみに富む’神様が滅びの道に行く人生をいとおしく扱ってくださったからです。第二は、独り子をくださった大きい愛と独り子イエス様が十字架に釘付けられて死なれた‘大きい愛’によつたのです。

5節と6節には“罪過によって死んでいたわたしたちを、キリストと共に生かし—あなたがたの救われたのは、恵みによるのである—キリスト・イエスにあって、共によみがえらせ、共に天上で座につかせて下さったのである。”と記録されました。

‘キリスト・イエスにあって’という言葉は私達がキリストと神秘的な連合になった状態を表しています。私達はキリストの中で新たな命を得ました。キリストの中で復活して変化された体を被り、キリストの中で完成されたこととして形容されました。神様の永遠の中で見ると既に完成された話を私達に言われているのです。

8節と9節には“あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなた

がた自身から出たものではなく、神の賜物である。決して行いによるのではない。それは、だれも誇ることがないためなのである。”としました。

救いはイエスキリストの救いの恵みによることです。神様側での一方的な賜物です。人間の行為は救いを得ることに於いては無用の物です。救いを受けた者はひたすら謙遜で神様に感謝と賛美と光栄を捧げる生活をすべきです。救われたことに比べるとその何も細やかなことです。

10節には“わたしたちは神の作品であって、良い行いをするように、キリスト・イエスにあって造られたのである。神は、わたしたちが、良い行いをして日を過ごすようにと、あらかじめ備えて下さったのである。”と記録されました。

イエスキリストを信じる人は新たな被造物になりました。本質と実相が全く変わりました。救いの恵みと真理は何よりもより貴重なことであるので確実に知って信じなければなりません。天におられる父親の思い通りに行うべきです。行為で功労を積むべきだという意味ではなく、聖書に啓示された救いの恵みと真理通りに信じるべきだという意味です。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

挑戦的な質問と明快な答え



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

新約聖書は 27 巻で構成されています。その中の半分ほどがパウロ使徒が聖霊の感動を受けて記録した手紙です。使徒パウロの手紙の中で最も多くの分量の文章がローマ人への手紙です。ローマ人への手紙は、キリスト教の教理体系を理解するのに最も重要なアシスタントになります。ローマ人への手紙は 16 章で構成されています。その中で、第 8 章では、ローマ人への手紙の中心に当たります。

今日はローマ人への手紙 8 章 29 節から 39 節までに記録された挑戦的であり、皮肉な質問とその答え見なせ、イエス・キリストを信じる人の絶対的安全と不動の勝利について見てみましょう。

第一は、「神がわたしたちの味方であるなら、だれがわたしたちに敵し得ようか。」という質問とその答えについて説明します。

私たちのために働かれる神は果たしてどんな方なので誰も敵対することができないということですか？

私たちの味方の神は全知全能であります。ヨシュアがカナンの地を征服戦争でアモリ人を追撃する際に十分な時間が必要でした。ヨシュアは「主がアモリびとをイスラエルの人々にわたされた日に、ヨシュアはイスラエルの人々の前で主にむかって言った、「日よ、ギベオンの上にとどまれ、月よ、アヤロンの谷にやすらえ」（ヨシュア記 10:12）と叫びました。すると、太陽と月が止まって一日中早く下らないことを、イスラエルの民がその敵を打つまでしました。「これより先にも、あとにも、主がこのような人の言葉を聞き入れられた日は一日もなかった。主がイスラエルのために戦われたからである」（ヨシュア記 10:14）としました。神は全能であります。

私たちの味方の神はどこでもおられます（無所不在です）復活されたイエス昇天前に、弟子たちに言われた、「イエスは彼らに近づいてきて言われた、「わたしは、天においても地においても、いっさいの權威を授けられた。それゆえに、あなたがたは行って、すべての國民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」（マタイによる福音書 28:18-20）しました。弟子たちは、イエスの言われた通りにエルサレムの家に集まって聖霊降臨を待ち祈っている内、すべてが聖霊に満たされました。彼らは主が共におられるという確信に満ちて情熱と大胆に伝道活動をしました。遍在の神が私たちとともにおられます。

私たちの味方の神は、私たちのほうがなれます。ダビデは詩篇で「主がわたしに味方されるので、恐れることはない。人はわたしに何をなし得ようか」（詩篇 118:6）と言いました。神の選ばれて、キリスト・イエスを信じて、神の品性にふさわしく生きる力を尽くす聖徒たちは、主には味方で私のために仕事なさるという確信を持って良いです。

私たちの味方の神は、絶対主権者でいらっやいます。

陶器師と土器」の比喩は神の絶対主権をよく説明しています。「ああ人よ、あなたは、神に言い逆らうとは、いったい、何者なのか。造られたものが造った者に向かって、「なぜ、わたしをこのように造ったのか」と言うことがあろうか。陶器を造る者は、同じ土くれから、一つを尊い器に、他を卑しい器に造りあげる権能がないのであろうか」（ローマ人への手紙 9:20,21）自分の意志で何でもすることができる絶対主権者、神がなさることについて人間は計る資格がありません。

私たちの味方の神が自分の息子を惜しまないし、私たちのために出してくださいました。「それでは、これらの事について、なんと言おうか。もし、神がわたしたちの味方であるなら、だれがわたしたちに敵し得ようか」（ローマ人への手紙 8:31）しました。神が私たちを救うために自分の息子を惜しまないしました。その息子を下さった神様が私たちに惜しむ授けないことは何でしょうか？すべての良いものを贈り物として与えてくださいます。神は全知全能で、どこにでもおられ、絶対主権者でいらっやいます。そして自分の息子を惜しまないし、私たちのために出してくださいました。これらの神が私たちが、だれが、神の選ばれた者たちを訴えるのか。神は彼らを義とされるのである。したがって、私たちに敵対して、私たちが神からひき下がらせる者がありません。聖徒の皆さんは、このような神様を考えながら、「神が私に味方ならば誰が私を敵になろうか」という確信を持ってください。

第二は、「だれが、神の選ばれた者たちを訴えるのか。だれがわたしたちを罪に定めるのか」という二つの質問とその答えについて説明します。

訴えという言葉は、法定の用語で法廷で審判官の前に裁判を請求することを指します。サタンや律法や良心やどんな人でも、私たちに訴えることができません。私たちに訴えるとしても、私たちは非難されません。「だれが、神の選ばれた者たちを訴えるか誰が非難するのか」という質問への答えとして、「だれが、わたしたちを罪に定めるのか。キリスト・イエスは、死んで、否、よみがえって、神の右に座し、また、わたしたちのためにとりなして下さるのである」（ローマ人への手紙 8:34）しました。

私たちが義とされたのは、裁判長である神の判決によるものです。神が義とされた根拠は、イエス・キリストの贖いの死と復活によるものです。イエスは十字架につけられ死なれ、私たちの罪を贖いしました。死んだ後三日目に死の力から復活しました。これは、神の義が満たされている確かな証拠です。死んだだけでなく、よみがえられキリスト・イエスは神の右におられ、私たちのために祈られます。「だれが、神の選ばれた者たちを訴えるか」「誰が罪を定めるか」という 2 つの質問に対して、あなたはどのようにお答えください。「死んだだけでなく、よみがえらたキリスト・イエスは私の救世主となられ、神の右におられ介として私のために祈られます。したがって、誰も私を訴えて非難することはできません。」と答えてください。

第三には、「だれが、キリストの愛からわたしたちを離れさせるのか。」という質問とその答えについて説明します。

イエス・キリストの愛は豊かで、永遠で、測定することができず、到達できないところがありません。悔い改めているすべての者に与える愛です。人種、男女、老若男女、職業、能力、家の差別がありません。人間の理解を超越し、切ることがない愛です。その愛は、幅、長さ、高さ、深さが限りがないです。私たちが主を裏切って離れていない限り、神ご自身が選択して救われた者を決して捨てていない愛です。

本文には、「だれが、キリストの愛からわたしたちを離れさせるのか。患難か、苦悩か、迫害か、飢えか、裸か、危難か、剣か。」という質問に対して答えるのを「患難ですか、苦しみですか、または迫害や飢饉や湿らせた、または危険や剣や記録されたわたしたちはあなたのために終日、死に定められており、ほふられる羊のように見られている」と書いてあるとおりである。しかし、わたしたちを愛して下さったかたによって、わたしたちは、これらすべての事において勝ち得て余りがある」（ローマ人への手紙 8:35-37）しました。患難は、外部からの手当たりのすべての困難や痛みです。苦悩は心の中で起こる痛みです。迫害は信仰のためにいじめられることです。飢饉は、食べ物がなく空腹に処することです。湿らせたは貧しい裸は脱がせられるものです。危難は、身の回りの脅威を受けることです。剣は傷害を負ったり、首を切られるにあうことなどを指します。

これらのことは、むしろ、キリストの愛をさらに強烈に体験してくれるだけです。聖徒たちは患難ですか、苦しみですか、または迫害や飢饉や湿らせた、または危険や剣と呼ばれる圧力を受けるときに私たちが愛しておられる主がそのようなものと対応する能力と恵みを私たちに供給してくださるので、私たちは圧倒的に勝つのです。

としました「わたしは確信する。死も生も、天使も支配者も、現在のもも将来のもも、力あるものも、高いものも深いものも、その他どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスにおける神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのである」（ローマ人への手紙 8:38,39）「死亡や生命や」という言葉は、死んで生きることを意味します。「天使も支配者も、能力や」という言葉は、超自然的存在を意味します。「現在の仕事や将来のもの」という言葉は、現在受けることや、将来になれることを意味します。「高さも、深や他のどんなの被造物や」という言葉は、名前さえ知らない別の世界や存在であつてもという言葉です。天地の間にその何も私たちが私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から引き離すことはできません。

ローマ人への手紙 8 章 29 節から 39 節までは、聖徒たちの絶対的不動の安全と勝利について確信に満ちた宣言であり、歌です。「誰が私たちに罪に定められるか」「誰が私たちに訴えるか」「誰が私たちが敵し得ようか」「誰が私たちがキリストの愛から切ろうか」という 4 つの挑戦的な質問、皮肉な質問について確信に満ちた答えとして、クリスチャンの安全性と勝利をきちんとして確定しました。皆さんも使徒パウロと共に絶対的不動の安全と勝利を確信に満ちた態度で明確に表明してください。